

中小企業のトレンド(第13回)

ここまで来た! 中堅・中小企業健康経営

2016.07.29

中堅・中小企業でも、積極的に社員の健康維持・増進に取り組む会社が出てきた。社員の健康が、サービスや技術力の向上、安全確保などに不可欠と考えてのことだ。先行する企業の経営者に取材し、健康経営の「戦略と戦術」をまとめた。

一歩先を行く会社も出てきた

中堅・中小企業健康経営の取り組み例

菅文 (岩手県二戸市)	パートも含めた定期健康診断の全員受診とその後のフォロー、部署・疾患別の要精密検査者の推移の把握、健康経営格付の取得
やまこう建設 (鳥取市)	要精密検査者への徹底した受診勧奨、各種がん検診の実施、心身の健康や安全衛生に関する社員への情報提供、安全衛生優良企業の認定
藤沢タクシー (神奈川県藤沢市)	がんになった社員の就労の継続支援、がん検診の受診についての啓蒙・啓発活動、職業性ストレス調査の先行実施

岩手県と青森県でホームセンターなどを経営する菅文(岩手県二戸市)は、今年3月、日本政策投資銀行の「DBJ健康経営格付」を取得し、有利な条件で融資を受けた。この格付けは、従業員への健康配慮の取り組みが優れた企業に付与され、評価結果に応じて融資条件が優遇される。75件の融資実績のうち、非上場企業は30社ほどしかない。

同社は、従業員数300人弱。2014、15年度はパートを含め、全員が定期健康診断を受診した。さらに健診で精密検査が必要とされた従業員のうち、8割以上が受診している(14年度のデータ、治療中の従業員を除く)

高い受診率の背景にあるのは、徹底した受診勧奨と情報提供だ。経営サポート部が要精密検査者を把握してその上司にメールで報告、受診を勧めてもらい結果を報告させる。加えて、同部が該当者に個別に電話して受診したかどうかを確認。一方で受診の便宜を図るため、「血圧が高ければ循環器科へ」「胸部エックス線の異常は呼吸器科」など、検査項目に応じた診療科を紹介する。

時系列で健康状態を把握… 続きを読む